

「熱い心」 ～日本一熱く、絆強き学校への道～



吹き飛んだ「根拠なき楽観論」！～東日本大震災の教訓！～

昨夜、あるニュース番組で「吹き飛んだ『根拠なき楽観論』」というタイトルで特集が組まれていた。「自分や家族は大丈夫だろう」、「原発は頑丈に作られているので大丈夫だろう」、「これを超える津波はさすがに来ないだろう」、…そんな根拠があるようでない「楽観論」がいくつもの最悪の事態を招いた。そう鋭く指摘していた。我々は日常の中で「このくらいは大丈夫だろう」「これで本当にいいのかなあ。でも、まあいいか」…、時に周りに流され同調してしまったり、つい「根拠なき楽観論」に身をゆだねて深く考え想像することをやめてしまうことが多いね。大きな被害を出した小学校で子どもを亡くされ、この10年間語り部として活動している方がこうおっしゃっていた。「『防災』は最後ハッピーエンドにならなければ」。「本当にこれでいいのかな?」「気になっていること、このままでいいのかな?」そう感じたときは、「根拠なき楽観論」に身をゆだねず、じっくり考え、深く想像することが必要だと教訓として伝えてくれていた。まさに一中が大切にしている「一人も取りこぼさない絆づくり」「一中人権宣言」に深くかかわる教訓。そして、考え想像するときに絶対に忘れてはならないのは、「一番きつい思いをする人はだれか」だね。さあ、「日本一へ『一人も取りこぼさない絆づくり』」を掲げた三学期もラスト二週。**心を繋ぎ、学びを繋ぎ、実践を繋いでいこう!**

薬物乱用防止教室！～命こそ宝！～

図2.いつから薬物を使いはじめたか?



全国14施設のダルク利用者調査より(n=164) われているのかを示したものの。

13.6歳、つまり中学1年生くらいにたばこを吸い始め、飲酒・シンナーと続き、10代後半で大麻、20歳前後で覚せい剤、20代中ごろで処方薬・市販薬の乱用を開始しているね。経験する薬物にはそれなりの順序性があるらしい。では、「たばこ」、「大麻」、「覚せい剤」にはどのような共通点があるのだろうか?…それは、3つの物質の使用方法がいずれも「煙を吸い込む」ということ。中学生でたばこを吸い始めるということは、その時点で煙を吸い込むトレーニングを完了しているということなんだね。つまり、たばこを一度も吸ったことのない人に大麻をすすめても、煙を吸うこと自体に強い**抵抗感**があるけど、中学1年生からたばこを吸っている子にとっては、大麻の煙を吸い込むことは簡単なことであり、心理的な抵抗感もそれほど大きなものではない。このような意味で**低年齢から開始されるたばこは、「薬物乱用の原点」**とも言われている。健康への悪影響を理解することに加えて、早期に煙を吸うトレーニングをするということは、自分の身を大麻や覚せい剤といった薬物に一步近づけている危険なことを深く理解する必要があるね。そして、今日学んだ**薬物依存症の恐ろしさ**と同じことが、**ゲーム依存症**でも脳の中で起こっていることにも逃げずに向き合い、学びをきちんと行動に繋げていこう。

